



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '99 11月号

漂着物を拾う会より



漂着物を拾う会は、奇数月の第2土曜日に虹ヶ浜海岸で開かれています。9月の会には、博物館実習に来た大学生も参加し、総勢34人でにぎやかに観察を行いました。この日は、国際ビーチクリーンアップ調査に参加したので、カンやプラスチック片など集めた人工物の数を手分けして数え、事務局に報告しました。世界各地で行われた同様な調査がアメリカで集計され、世界の海がどんな原因で汚れているかを知る資料として使われるのです。特に最近ではペットボトルが増えており、生活の変化がすぐに漂着物にも反映されることが実感できました。

この日、見つかった目ぼしい物としては、“浙江省”の文字のある中国本土製の浮きがありました。また、季節柄、お盆に流されたワラ製の牛や馬もいくつか見つけることができ、会員の方から牛と馬の見分け方、門口への置き方などの話があったので、民俗の勉強もすることができました。

宝探しのような漂着物を拾う会は、次回は11月13日に開かれます。新しい参加者も歓迎しますので、ぜひお出でください。なお、初めて参加される方は、往復ハガキで申し込んで頂ければ、集合場所などを通知します。



漁具につける中国製の浮き



ワラのできた牛

秋期特別展「相模の道祖神」記念講演会

10月24日、特別展記念講演会「相模の道祖神」が、國學院大學文学部助教授の小川直之先生を招いて開かれました。会場の博物館講堂には、82名の方々があつまれ、熱心に聞き入っていました。

講演は、前半が「相模の道祖神の特色」、後半が「古文献に記された道祖神」の二つに分けて話されました。「相模の道祖神の特色」について、第一に道祖神の姿が石に彫ってあることを挙げ、その理由は、全国的に見ると双体道祖神石像はごく限られた範囲にしかなく、藁人形や木製の道祖神を祀る地域も少なくないためであると述べられました。また、初期の双体像が地蔵のような僧形であるのは道祖神と地蔵が習合したためであると説かれました。さらに、文献上では10世紀にすでに道祖神信仰があったのだから、17世紀後半に双体像が出来る以前も、道祖神は何らかの形で祀られていたはずだと主張され、石像以前の形について、(1)石積み(全国各地)、(2)柴折り(西日本)、(3)藁人形(東北地方)の三つの予測が立てられると述べられました。

「相模の道祖神の特色」の第二に、1月14日の火祭りが道祖神の祭りであることを挙げ、理由は、小正月に火祭りを行うのは全国的だが、これが道祖神の祭りであるのは、双体道祖神が祀られている関東・甲信越だけであるためと述べられました。そして、相模の道祖神信仰を構成する要素を次の9点に整理されました。(1)目一つ小僧(疫病神)の伝説と結びついていること、(2)オンベを作ること、(3)セイトバライを行うこと、(4)五輪塔片を祀ること、(5)サイノカミが巡行すること、(6)子供組の行事であること、(7)アクマツバライをすること、(8)子授け・性の神であること、(9)村境や辻に祀られることです。この中で、オンベは神迎えと神送りのための依り代であると明快に解釈され、三角錐の塔(セイト)が山車の山鉾と似ていることやセイト笑いで囃すことは宮廷儀礼との関連が感じられると指摘されました。

後半は、古文献をもとに道祖神の神名を整理され、「道祖神」は中国から来た「道祖」という漢語をサエノカミに当てて出来た言葉であると説かれました。10世紀前半の『和名抄』にはいわゆる道祖神的な性格を持つ神として、フナドノカミ、タムケノカミ、サヘノカミの三神が扱われているが、『今昔物語集』など11世紀の文献になると、それぞれの神の祀り方がごちゃ混ぜにされ、すべて道祖神に集約されていったと指摘されました。また、『古事記』に現れるフナドノカミが、あの世とこの世の境に位置する神であることをふまえ、お飾りなどを道祖神に納めるのは、あの世とこの世を行き来する道祖神が清らかな場所へ持って行ってくれるからだと言われました。



秋期特別展 さいのかみ

「相模の道祖神」

11月23日まで開催中

入場無料

金曜日は夜7時まで開館！

特別展解説図録

相模の道祖神とその祭りのことが何でも分かる百科事典！ぜひお求めください。

頒価1000円。博物館受付まで。

平塚市文化財特別公開

主催：平塚市教育委員会

日：10月30日～11月7日

会場：二階展示室情報コーナー

このほど平塚市指定重要文化財に指定された神田寺所蔵の「涅槃図」と「十王図のうち五道転輪王」などの絵画を展示します。

しし座流星群を見よう

★今年はいつ見えるか

今年もしし座流星群の極大がやってきました。この流星群の原因はテンペル・タットル彗星がその軌道上にまき散らしたちりで、これらが地球に衝突、大気中で光を放つ現象とされています。そこで、流星数が最も多くなる時刻の予想には、地球が彗星軌道に近づく時刻が用いられます。今年日本時間で18日11時ころになるようです。しかしこれだと昼間ですから、日本では眺められません。また、この流星群は右の図のように軌道の関係上、夕方や宵の空では観察できません。観察時間帯は23時ころから明け方までの間になります。すると先の時刻に最も近いのは18日の明け方ということになります。

しかし、ちりたちの軌道は、彗星の軌道と全く同じではありません。このため、昨年のように、予想時刻より19時間も早くヨーロッパ方面で流星数の最高を記録するような事態もあるわけです。1日だけ選ぶなら18日の明け方の観察が無難ですが、前後の日にもたくさんの流星が見られる可能性も残ります。

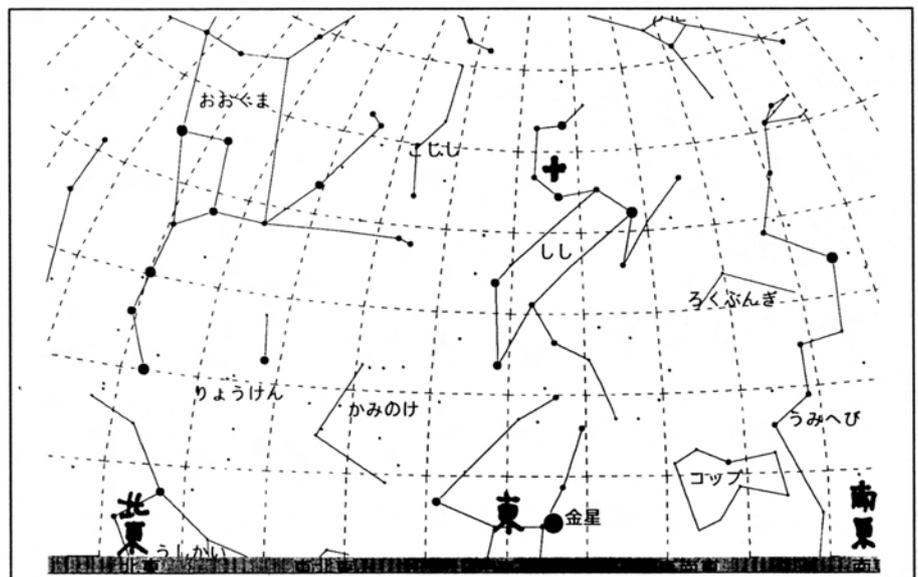
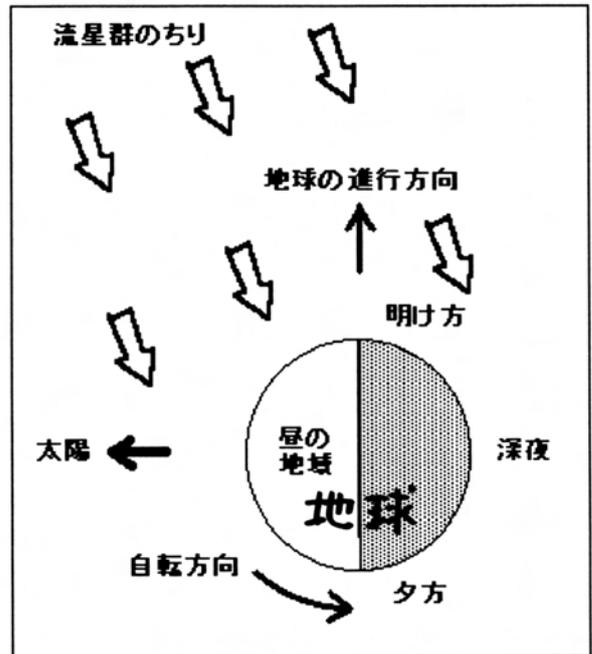
★流星はこうして見よう

下の図は18日の明け方3時の星空です。図の外、南にはオリオン座やおおいぬ座など冬に見られる星座たちが競うように輝いているでしょう。東にはしし座と、北よりに北斗七星のあるおおぐま座が見えます。流星群の輻射点（ふくしゃてん）はしし座の頭部（+印）ですが、ここに流星が現れるという意味ではありません。まず周囲を見渡して、見やすい方角や・天頂など、視野を広くとってながめてみましょう。

観察には、なるべく広々と空が見られる場所が向いています。さらに空が暗く星がたくさん見えれば申し分ありませんが、この流星群は明るい流星が多いので、街の中でもそこそこに見られるはずですが。昨年は市内でも1時間に10個前後の流星が見られたようです。遠征する方は地元の方の迷惑にならないよう、マナーに気をつけましょう。

長い時間星空の下にいることになります。防寒具は万全にしましょう。手袋のほか、ソックスや靴などにも気をくばりましょう。上着にフードがなければ、帽子もあるとよいでしょう。

観察中はなるべく明るい光を見ないように。部屋にひんぱんに入出入りするなら、部屋の明かりも消しておきましょう。街灯など、どうしても見上げるほうに明るい光があるときは、手で覆い直接目に入らぬようにするなど工夫してください。



博物館カレンダー

1999年11月

2	火	☆	特別展「相模の道祖神」 (～11月23日)	特展室
		☆	寄贈品コーナー「石仏展」 (～11月28日)	展示室
5	金		古文書講読会	講堂
6	土		地質調査会	特研室
7	日		民俗探訪会	野外
11	木		石仏を調べる会	特研室
12	金		古文書講読会	講堂
13	土	○	考古学入門講座「土器の編年」	講堂
		◎	漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		☆	プラネタリウム「しし座流星群」	プラネ室
		○	特展記念「道祖神めぐり」	秦野市
14	日		地質調査会	野外
			天体観察会「流星観察準備」	科学室
	土	○	自然観察ゼミナル「鳥のねぐら」	科学室
日	☆	プラネタリウム「しし座流星群」	プラネ室	
17	水		裏打ちの会	科学室
			地質調査会	特研室
19	金		古文書講読会	講堂
20	土	☆	プラネタリウム「惑星の動き」 (～1月9日)	プラネ室
			古代遺跡を探す会	野外
21	日	◎	ろばたばなしの会	展示室
25	木		石仏を調べる会	特研室
26	金		古文書講読会	講堂
		◎	星を見る会「木星と土星」	屋上
27	土	○	考古学入門講座「土器の編年」	講堂
			空襲と戦災を記録する会	特研室
28	日		相模川の生い立ちを探る会	東丹沢
		○	自然観察ゼミナル「鳥のねぐら」	野外

1999年12月

1	水	☆	寄贈品コーナー「地質」 (～12月26日)	展示室
3	金		古文書講読会	講堂
4	土	○	こども観察会	大原
		☆	プラネタリウム「惑星の動き」 (～1月9日)	プラネ室
5	日		民俗探訪会	野外
9	木		石仏を調べる会	特研室
10	金		古文書講読会	講堂
12	日		地質調査会	野外
15	水		裏打ちの会	科学室
			地質調査会	特研室
17	金		古文書講読会	講堂
		○	自然観察ゼミナル「鳥のねぐら」	野外
			相模川の生い立ちを探る会	鷹取山
18	土		天体観察会「変光星」	屋上
19	日	○	体験学習「お飾りを作ろう」	科学室
		◎	ろばたばなしの会	展示室
			古代遺跡を探す会	野外
24	金		古文書講読会	講堂
25	土		空襲と戦災を記録する会	特研室
26	日		地質調査会	科学室

○こども観察会 「公園で紅葉を見よう」
日時：12月4日(土) 午後1時半～4時
場所：平塚市総合公園
申込：11月20日までに往復ハガキで。30名。
小中学生と保護者に限る。

◎星を見る会
「木星と土星」
日時：11月26日(金) 19時～20時30分
場所：博物館屋上(集合は科学教室) 参加自由

◎漂着物を拾う会
日時：11月13日(土) 9時半～11時
場所：平塚市虹が浜海岸(集合：花水川橋たもと)

◎ろばたばなし
相模地方の伝説と昔話を語ります。
日時：11月21日(日) 午後1時半と3時
場所：1階展示室民家内 参加：自由

☆寄贈品コーナー「石仏展」
写真とイラストで市内の石仏を紹介します。
会期：11月2日(水)～11月28日(日)

☆プラネタリウム
「流星雨の降る夜」
・期間：11月7日(日)まで
特別投影「しし座流星群」
・期間：11月13日(土)・14日(日)
「惑星の動き」
・期間：11月20日(土)～1月9日(日)
※土日の 11時と14時
※観覧料：100円

☆：展示(無料)・プラネタリウム(観覧料)
○：申込制 ◎：自由参加 他は年間会員制

あなたと博物館 24巻8号通巻274号 発行 平塚市博物館 3000
〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel.0463-33-5111 Fax.31-3949